

夜高あんどん祭りツアーと

町民との触れ合い

— 沼田町訪問記 — 東京沼田会会長 田坂 勝 芳



「ヨイヤサー・ヨイヤサー」のかけ声とともにあんどんが練り歩く、観衆からのツアーの参加者を加えて一斉に踊りの輪に加わる。お祭りと観衆が一体となる瞬間であった。喧嘩祭りといわれる夜高あんどんは、いよいよクライマックスとなり激しいぶつかり合いで最高潮となる。衝突の音、大丸太で出来た屋台のきしむ音、引き手若者と観衆からの歓声、衝突による地響きが伝わってくる。その衝突は幾度も繰り返された。

も繰り返された。

東京沼田会では、設立25周年の記念事業として、8月24、25日、ふるさと沼田町を訪問し、北海道3大あんどん祭りのひとつである「沼田町夜高あんどん祭り」を見学する



夜高あんどんのクライマックス

とともに沼田町内の主要施設を見学して、町民の方々と親交をはかる目的で計画された。ツアー参加者は、24日、NHK連続テレビ「すずらん」の舞台となった明日萌駅（JR恵比島駅）に集合し、宿泊先のほろしん温泉ホテル館の送迎バスで、お祭り会場近くの夕食会場で町長はじめ町議会議員、商工会会長、北いぶき農協などの方々が町を挙げたお祭りの多忙な時間を割いて多くの方々に歓迎していただき、お祭り見学会場へ移動した。

翌25日は、化石体験館、留萌鉄道走っていた現存する日本最古の蒸気機関車「クラウス15号」、田浅野市街の面影を湖から眺める沼田ダム記念公園などの見学となった。花卉栽培農家でお花の生産ハウスと出荷状況の見学、メロン栽培ファームでは、メロンハウスで参加者が収穫の体験をし、土産として持ち帰った。25日夕方には、沼田町在住の親類、

知人や同級生、町・JAの関係者など多くの方々の参加をいただき、町民の方々とふれあいの場となった。

躍動するあんどん、取り入れ問近の稲穂の波、遠くに時折望む暑寒別岳、いずれも懐かしく思い出深いふるさとの訪問となった。

※「夜高あんどん祭り」沼田町開祖の沼田喜三郎翁の出身地である富山県小矢部市に古くから伝わる伝統あるあんどん祭りを、35年前に沼田の地に伝承され始まった。

雑感 東京在住40年

いたばし北海道人会 伊 塚 清

昭和47年1月3日に勤務地の札幌から冬季応援（転勤）で東京に来ました。発令時は雪どけしたら戻る話でしたが普通の転勤になりました。寮は新宿区（神楽坂）で勤務地は千代田区（富士見）なので徒歩10分の通勤です。お陰さまで終電後の残業も度々あったが後楽園（野球場・ホール・競馬・庭園）や（靖国神社資料館）や千鳥ヶ淵が近隣にあり、特に夜の歌舞伎町は格別で、給料は残るはずありませんが楽しい日々を過ごしました。早朝の皇居一周サイクもたのしい思い出で、職務質問も経験しました。

ふるさと会との出逢いは高校同窓会で東京旭川会に誘われました。故八木祐四郎会長や多くの諸先輩たちに指導と激励を頂き、現在も幹事役の

大歓迎しますのでおいでください。北海道ふるさと会連合会のミニ板橋版です。東京で40年経ちますがやはり故郷が一番だと思います。いまは区のスポ推進や青健事業で恩返しをしながら暇を見つけては格安航空券で気軽に故郷へ戻って遊んでいます。

本年度は残念な結果になってしまいましたが、

シーズン通しての変わらぬ

ご声援ありがとうございました。

来シーズンも北海道の皆様とともに

戦ってまいります。

暖かいご声援を宜しくお願いいたします。

北海道日本ハムファイターズ



HOKKAIDO
PRIDE

北海道の誇りを胸に